

追悼 儀間比呂志 沖縄を描き続けた版画家



retrospective
HIROSHI GIMA

2018.7.14(sat)-9.9(sun)

協力 立命館大学国際平和ミュージアム

原爆の図 丸木美術館

Maruki Gallery For The Hiroshima Panels
埼玉県東松山市下唐子 1401 月曜休館（祝日の場合は翌平日）、8/1-15は無休

オープニングトーク 7月14日（土）午後2時15分「儀間比呂志と戦後沖縄」
出演：新川明（ジャーナリスト）、豊見山愛（沖縄県立博物館・美術館主任学芸員）
参加 500円（入館料別途）

追悼 儀間比呂志 沖縄を描き続けた版画家

2018.7.14(sat)-9.9(sun)

2017年4月11日、沖縄を描き続けた版画家の儀間比呂志が逝去しました。

儀間は、1923年に沖縄県那覇市に生まれ、18歳から約3年間を当時日本の統治下にあった「南洋群島」テニアン島で過ごしました。その後、徴兵検査のため沖縄に戻り、出征。海軍に入隊し、神奈川県横須賀で敗戦を迎えました。戦後の沖縄は米軍政下にあつたため、復員列車の終着点であった大阪に生活の基盤を置くことになります。そして大阪市美術研究所で洋画を研修後、上野誠に木版画を学び、1950年代から沖縄の人びとの暮らしや祝祭、沖縄戦、米軍基地問題などをテーマに作品を発表していきました。

今展では、立命館大学国際平和ミュージアムの協力により、同館が所蔵している儀間の版画作品から45点を展示します。沖縄戦をテーマにした芸術表現は、決して多くありません。その数少ない例が、丸木位里・俊夫妻の共同制作《沖縄戦の図》や、儀間の木版画や油彩画・絵本原画です。どちらも実際に沖縄戦を体験していない、外からの視点で表現された作品であることが、過酷な地上戦となつた沖縄戦の傷の深さを表していると言えるかもしれません。

丸木位里は「沖縄を描かなければ、戦争を描いたことにならない」と語りました。儀間は、その沖縄戦に向き合い続け、描き、伝えることに生涯を尽くしました。儀間の作品を丸木美術館で多くの方にご覧いただくことは、現在もなお米軍基地問題に直面している沖縄へ想像力を広げるために、重要な意味を持つことでしょう。

[連携企画] 沖縄県立博物館・美術館コレクション展 儀間比呂志の世界
2018年7月13日-2019年1月6日 沖縄県立博物館・美術館

このチラシをお持ちの方は、丸木美術館入館料が100円割引となります。



表面) 上: いくざあそび 1981-84年頃 62.2×97.3cm

下: 戰場をさまよう 1979年頃 85.7×51.7cm

裏面) 上: 那覇まつり 1985年頃 54.9×83.0cm

下: アリランの歌 1991年頃 97.4×62.0cm

公益財団法人 原爆の図 丸木美術館

5月5日は開館記念日・8月6日はひろしま忌

[常設展] 「原爆の図」連作

「水俣の図」

「南京大虐殺の図」

「アウシュビッツの図」

「水俣・原発・三里塚」

丸木スマ水彩画等

[開館時間] 午前9時～午後5時

[休館日] 月曜日(月曜祝日の場合は翌平日)

8月1日～15日は無休

[入館料] 大人900円 中高生または18歳未満600円

小学生400円 団体(20名以上)、60歳以上、

チラシ持参者、比企地区在住者100円割引

障碍(しょうがい)のある方は半額

〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401
TEL 0493-22-3266 FAX 0493-24-8371

[U R L] <http://www.aya.or.jp/~marukimsn/>

[Eメール] marukimsn@aya.or.jp

[交通] ●東武東上線森林公園駅

南口よりタクシー10分、徒歩50分

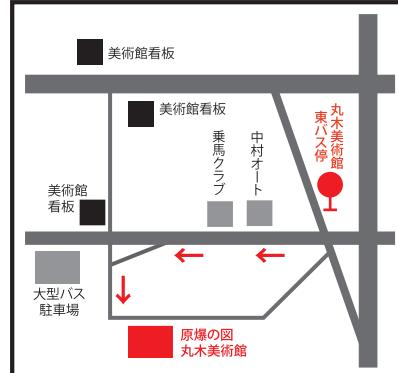
●東武東上線東松山駅より市内循環バス唐子コース(日祝運休) 約15分

「丸木美術館東」下車徒歩15分

●関越自動車道

東松山インターより小川方面10分

●東武東上線つきのわ駅南口から徒歩27分、詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい



【市内循環バス時刻表(日祝運休)】

東松山駅東口発 丸木美術館東発

丸木美術館東行 東松山駅東口行

08:55 10:32

10:00 11:37

11:05 14:02

13:30 15:02

14:30 16:27

15:55 17:32